

## 豊漁豊作と日々の暮らしの安全を願ひ

### カムイノミ・イチャルパの開催

7月22日、礼文華生活館にて豊浦アイヌ協会（宇治義之会長）主催のカムイノミ・イチャルパが開催され、礼文華小学校児童やアイヌ協会苫小牧支部など関係者約100名が参加して執り行われました。

宇治会長は、「アイヌ立法の制定や2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開会式などに参加できるよう、北海道アイヌ協会の加藤理事長をはじめ大変苦労されている。我々もアイヌ民族発展のために努力していきたい」とあいさつしました。



▲神への祈り カムイノミの儀式

## 平和の尊さを次世代に

### 豊浦小・中学校で平和学習の実施

7月18日、豊浦中学校で、修学旅行の報告会が行われました。今年の修学旅行は、町と議会が平成27年に「非核・平和の町宣言」したことを受けて、平和学習を目的に広島・関西方面を訪れました。

平和記念公園に行ったグループは、平和記念資料館にある原爆被害にあった展示品について、パソコンで写真を見せながら、説明しました。

また、7月21日、被爆体験証言者として活動している、川本省三さん（広島市）の「戦争を語り継ぐことが私の使命」と題した講演会が、地域交流センター「とわにー」で行われました。



▲児童生徒に語りかけるように話す、川本省三さん

## 永遠の世界平和を願う

### 戦没者追悼式



▲花を手向け、ご冥福を祈る参列者

7月19日、中央公民館にて平成29年度戦没者追悼式が執り行われました。

式にはご遺族や来賓など65名が参列し、日露戦争以降の町内戦没者233柱へ黙とうを捧げ、ご冥福を祈りました。

町長は「戦争の悲惨さをしっかり伝えていかなければならない。1日も早い世界平和が訪れることを祈っている」と述べ、ご英霊とご遺族に謹んで敬意を表しました。



▲原爆ドームを見学し、感想を話す生徒

川本さんは、原爆投下時11歳。疎開先の広島県の神杉村（現・三次市）で「広島が新型爆弾で全滅した」と聞き、迎えにきた姉から、「母と妹が亡くなり、父と妹の行方が分からない」と聞かされ、姉も半年後に白血病で他界し、原爆孤児となりました。

原爆孤児が理由で就職、結婚ができない悔しさ、自殺をしようと思ったこと、そしてそこから立ち上がり、「当時、被爆しなくても生きられなかった孤児がたくさんいた。戦争の姿を知ってほしい」と語り部になることを決意し、自分の体験を話す活動をしています。

川本さんは、「食べることを学べることを大切に、世界中の子どもたちと交流してほしい」と平和の尊さを児童生徒に語りかけていました。